

第30回泌尿器科漢方研究会学術集会

会期：2012/04/23 ～ 2012/04/23 会場：パシフィコ横浜(神奈川県)
会長：

誌名：第30回泌尿器科漢方研究会学術集会講演要旨集

Vol : No. Page : 3

発行年：2012

頸髄症に合併した過活動膀胱に 漢方薬が有効であった1例

大田原赤十字病院 整形外科
吉田 祐文

トイレの行き返りの転倒で骨折する高齢者は存在します。演者は整形外科医としてこの問題に取り組んでいるため、整形外科を受診するLUTSの症例の診療に携わっており、軽症であれば薬物治療も行っています。しかし整形外科医にとっては専門領域外であることは否めず、自験例で疑問を持った症例や少数の治験例ながら気づいたことなどをまとめ、本研究会に参加・報告し、ひとつひとつ知見を増やしているところです。今回は頸髄症に合併した過活動膀胱に漢方薬が有効であった症例を経験したので報告します。

74歳、女性。X-1年12月に手指のしびれで発症し、近医（整形外科）を受診。X線、MRI画像で第1～第3の後縦靭帯骨化とそれによる重度の脊柱管狭窄を認めた。X年2月に当科を紹介されたときには画像では多椎間での脊髄の高度の圧迫所見を認めていたが、症状が手指のしびれと軽度の歩行障害にとどまっていたため手術適応ではあるものの経過観察を希望されました。同年の6月、諸症状に変化はないものの頻尿であることを訴えたため過活動膀胱の症状質問票での問診をしたところ、夜間排尿が3回以上、尿意切迫感が1日2～3回で合計7点で過活動膀胱であった。抗コリン剤のベンケア錠5mg1錠を1日1回で処方したところ、1ヵ月後には夜間排尿は3回から1～2回に減少していた。

手指のしびれと歩行障害の改善を図りオバルモン錠5mg3錠を1日3回で併用した。その1ヶ月後には夜間排尿は1～2回と変わらず、手指のしびれは軽減が得られた。9月になると夜間排尿は2回くらいに増え、11月にも2回くらいの状態が続いていた。和漢診療学的には腎陽虚であることから排尿障害の改善のために牛車腎気丸エキス顆粒7.5mgを1日3回で追加処方したところ、12月には夜間の排尿は1回に減っており、以前よりもいいと満足度は高かった。